

情報教育の実践

守谷市立高野小学校

1 情報スキルに関する取組

本校では、守谷市小中一貫情報教育指導計画における情報スキル指導の他にも、電子黒板やタブレット端末を活用した授業実践を行ってきた。特にタブレット端末においては、教員同士がアイデアを出し合い、有効な活用方法を模索してきた。

＜主な ICT を活用した授業実践例＞

【電子黒板を活用した学習】

- ・ Web コンテンツを電子黒板で提示する。
- ・ 書画カメラを使い、教師の手元を拡大して電子黒板に提示する。

【タブレット端末を活用した学習】

- ・ 自分の活動を動画で撮影し、よいところや直した方がよいところを確認した。
- ・ 理科では実験の手順を振り返ったり、実験の様子を撮影しておき、まとめとして活用したりした。
- ・ インターネットでの調べ学習を行った。
- ・ 写真撮影し、その写真にポイントやわかったことを書き込んで発表した。



2 情報モラルに関する取組

(1) 外部講師との連携

本校では、市の指導計画以外でも外部講師と連携して情報モラル教育を行った。

4年生…NTT docomo「ケータイ安全教室」

5年生…e-ネットキャラバン「e-ネット安心講座」

6年生…茨城県警「非行防止教室」

学年や段階に応じたモラル教室を開催することで、情報モラルへの意識が高まってきている。また、実態に応じた講演もしていただき、より身近な問題として捉えることができている。また、懇談会等による保護者への啓発の仕方もアドバイスいただきとても参考になった。

(2) 保護者・教員向けの情報モラル教室の開催

1学期末の授業参観後に、外部講師による保護者・教員向けの情報モラル教室を開催した。保護者の意識も高く、約120名の保護者に集まっていた。保護者の知らないトラブルや防止方法などを知ることができた。保護者の意識も高まりつつあるようだ。

3 学校独自の取組

- ・ 本校にはコンピュータクラブがあり、4・5・6年生22名の児童で活動している。コンピュータクラブでは、スタディーノートを使って自己紹介カードを作成したり、ジャストスマイルを使って名刺づくりなどを行ったりしている。
- ・ 全校集会や、各委員会が中心となっていく児童集会でも、パワーポイントを用いて、活動の様子をプロジェクターで映写して紹介したり、クイズを出したりするなど、積極的に ICT 機器を活用している。

4 成果と課題

- ・ 児童の情報スキルは向上し、情報モラルへの意識は上がっている。モラルの意識を継続させられるようにしたい。
- ・ タブレット端末を積極的に活用することで、授業の幅が広がり、児童の興味を高める学習を進めていくことができた。
- ・ 今後、電子黒板が教室設置になることに伴い、教員のスキルを高めるため、効果的な活用方法や活用の頻度を高めることのできる研修を行っていきたい。

【実践事例：第2回情報教育推進委員会】

高野小学校 第4学年 理科指導案

授業者 小寺由美子

1 単元 わたしたちの理科室

2 本時の学習

(1) 目標

- ・アルコールランプの正しい使い方を身に付けることができる。

(2) 展開

学習内容・活動	指導上の留意点と評価 ◎評価 ★学びのプランとの関連
1 本時の課題を知る。 アルコールランプの使い方を覚えよう。 2 教師の演示を見て、アルコールランプの使い方を理解する。 ① 点検と準備をする。 ・ガラスにひびが入っていないか。 ・芯は正しく出ているか。 ・アルコールの量は適量か。 ② 火を付ける。 ・ふたを取る。 ・マッチを擦る。 ・火を下か横から近づける。 ③ 火を消す。 ・ふたを斜め上から静かにかぶせて火を消す。 ・火が消えたらもう一度ふたを取り、再びふたをする。 3 タブレット端末で手順と注意事項を確認する。 4 グループごとに、アルコールランプをつける。 ・一人ずつ順番に、手順を確認しながら行う。 ・児童がアルコールランプに点火している様子をタブレット端末で撮影し、見る。 5 本時のまとめをする。 ・ワークシートで自己評価を行う。 6 片付けをする。 ・アルコールランプは両手で運ぶ。 ・マッチの燃えがらは、きちんと水につけたか確認する。	・アルコールランプを提示し、児童が興味をもてるようにする。 ・教師の演示が見やすい場所まで児童を移動させ、よく見るよう声をかける。 ・準備するものの確認をし、燃えがら入れやぬれぞうきんを用意する必要性や、すべて揃っていないと危険であることを確認する。 ・アルコールランプへの点火の際、注意しなければならないことをしっかりと押さえながら、丁寧に演示を行う。 ・タブレット端末と電子黒板で、点火から消化までの手順をもう一度確認する。 ・グループで協力して準備を行い、実験技能を身に付ける大切さを伝える。 ・教科書やノートなど燃えやすいものは机の上に置かないようにさせる。 ・グループごとに声を掛け合って、安全に活動ができるよう助言する。 ・マッチが擦れない児童は、点火の補助をし、作業が進められるようにする。 ★タブレット端末で実験の手順を確認しながら、進んで学習できるようにする。 ◎ アルコールランプの正しい使い方を身に付けることができたか。 (観察・ワークシート) ・実験用具の片付け方の注意点を確認する。